



## 市立宇和島病院の基本理念

患者さま中心の医療を基本として

- 「信頼される病院」
- 「思いやりのある病院」
- 「やすらぎのある病院」
- 「進化しつづける病院」
- 「地域になくては  
ならない病院」

をつくります。



災害拠点病院、周産期母子医療センター、臨床研修病院等の指定を受けおり、南予の基幹病院です。また、各種医学系学会の教育病院、研修病院としての認定を受け、医師の研修施設としても稼働しております。

手術支援ロボットーダヴィンチは昨年度当院で実施しましたイベントでも展示しましたが、鏡視下手術の支援をしてくれるロボットです。術者がカメラを通して映像を見ながら遠隔操作することで、お腹や胸の中に入りました小さな機械が自由に動き病変を取り出し、更にその後の再建ができます。術者は画像を立体画像や拡大視できることがあり、手ぶれ防止機能があるため通常の鏡視下手術に比べ、より精細な手術が可能となります。

愛媛県では県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院に導入されており、

市立宇和島病院、院長の梶原です。当院は100年以上の歴史を持ち、愛媛県では住友別子病院に次ぐ歴史のある病院です。南予救命救急センター、がん診療拠点病院、研修病院としての認定を受けおり、南予の基幹病院です。また、各種医学系学会の教育病院、研修病

院としての認定を受け、医師の研修施設としても稼働しております。

新病院開院後5年が過ぎましたが、開院後も当院では診療内容の充実のため、新たな投資を続けて参りました。今年度は3.0テスラのMRIと手術支援ロボットーダヴィンチ、またインターネットを利用した医療連携システムを導入することとなりました。3.0テスラのMRIにつきましては、これまで稼働してきた1.5テスラのMRIより鮮明な画像を提供できるようになるため、診断能力の向上に寄与すると思われます。

以上今年度に導入される医療機器等をご紹介させていただきました。

当院においては急性期病院として求められる高度な医療機器を今後も導入したいと考えております。これらの医療機器は億単位の非常に高価な機械ですが、今後の南予圏域の医療を担うことを考えれば必須であります。護師不足によつてこの地域の医療は厳しい局面を迎えていますが、我々の体力が必要です。医師不足、看護師不足によるため、この地域の医療は導入するためにはある程度病院との協力を賜りますようお願い申し上げます。



当院は県内で3番目の導入となります。残念ながら保険診療となる範囲が限られておりますので、当面は泌尿器科の前立腺がんの手術を主体に運用していく予定ですが、保険適用に応じて外科手術、婦人科手術にも積極的に取り入れていく予定です。

インターネットを利用した医療連携システムとは、セキュリティの保たれた専用のネットワークを利用して、患者さま同意のもと、紹介いただいた開業医の先生方や他病院の先生方が当院の電子カルテを参照できるシステムです。各先生方の診察室で当院の患者さまの検査結果や検査画像、病理診断の結果や手術の結果などを見ることができます。今後地域の病院、医療機関との連携に役立つと思われます。

接遇研修を終えて

副看護部長  
土居 洋子

去る3月12日、塩山純加先生による接遇研修が行われ、155名の多職種の方々に参加していただきました。

隣の人とのハイタッチから始まり、  
あいさつ・会釈とお辞儀・ことばのレッスンなど実践しながらおもてなしの心を学びました。



た。制限して、た時、よい看嬉しく思いま自分の意思を多く、小さる観察力も必要です。これからも知識・技術だけでなく感性を磨きながら、明るく元気に看護を続けていこうと思います。



私が看護師として働き始めて一年が過ぎました。当初は患者さまの症状と病態を結び付けた看護が難しいと感じながら、日々の業務に追われていましたが、スタッフ全員に支えられ少しずつ病棟の仕事に慣れていくことができました。

様々な合併症や複雑な事情をかかえた患者さまが多く訪れます。年々この傾向は強まり専門的な対応が求められています。まだまだ糖尿病が放置されていることがあります。非常に悪化した状態でみつかることが今でもよくあります。こういった事例を少しでもなくそうと、コメディカルスタッフとも連

糖尿病・内分泌内科は平成21年4月より科長宮内省蔵、医長江口透の2名で診療を行つております。対象とする地域は宇和島と高知県西部を含めた周辺地域です。外来は月曜日から木曜日まで一般外来と専門外来で対応しておりますが、緊急的対応も隨時行っています。

糖尿病入院患者数は平成25年に約180例で症例数は年々増加しております。また、甲状腺エコー検査は主に水曜日の午前中に行い、年間約800例程度、甲状腺細胞診は年間約300例程度実施しています。また、市立津島病院でも毎週金曜日に外来診療を行っています。

糖尿病は生活習慣病の代表的疾患で、成人の3人に1人が糖尿病あるいはその予備群であるとの統計も発表されております。宇和島地域でも糖尿病の患者さまは非常に多く、高齢者が多いため、単純に血糖値が高いだけではなく、治療を行つています。

糖尿病入院患者数は平成25年に約180例で症例数は年々増加しております。また、甲状腺エコー検査は主に水曜日の午前中を行い、年間約800例程度、甲状腺細胞診は年間約300例程度実施しています。また、市立津島病院でも毎週金曜日に外来診療を行っています。

糖尿病は生活習慣病の代表的疾患で、成人の3人に1人が糖尿病

携し、イベントや糖尿病教室といつた啓発活動を行っています。内分泌疾患は稀と考えられがちですが、甲状腺疾患や副腎疾患、カルシウム代謝異常はよく見られる疾患です。調子が悪いけど原因が分からぬまま経過し、最後に内分泌疾患が判明したということがよくあります。直接目には見えない分野ですから、一般には見つかりにくい疾患ですが、専門的な目で見れば非常に多数の疾患がかくれていることがあります。内分泌疾患が見落とされることがないよう日に頃から厳しい目をもつて診療にのぞんでいます。

シリーズ  
各科紹介

糖尿病·内分泌内科

科長 宮内省藏



## 市立宇和島病院の 臨床研修医について

臨床研修係

市立宇和島病院は平成16年に臨床研修基幹病院の指定を受け、初期研修医が2年間患者さまの診療を通して日々研鑽を積んでおります。臨床研修制度においては、初期研修の2年間で医師として必要最低限の知識と実技を身につけ、後期研修3年間で、各専門領域において更に技術を磨き、医師として成長していきます。

現在当院では、初期研修医が11名在籍しております。一部の疾患のみ診療するのではなく、「ジエネラリスト」と呼ばれる総合的な診察を行う医師に育てるべく、指導医の先生方に日々厳しくご指導いただいております。初期研修医のうち1年目研修医については9ヶ月を内科および救急外来において研修しております。2年目研修医については、希望により各診療科に所属しておりますので、患者さまとふれあう機会があるかもしれません。地方における医師不足が深刻な昨今、南予地域独特の暖かい患者さまに囲まれて、日々研修医は成長しております。今後も温かく見守つていただきますようお願い申し上げます。

現在当院では、初期研修医が11名在籍しております。一部の疾患のみ診療するのではなく、「ジエネラリスト」と呼ばれる総合的な診察を行う医師に育てるべく、指導医の先生方に日々厳しくご指導いただいております。

初期研修医のうち1年目研修医については9ヶ月を内科および救急外来において研修しております。2年目研修医については、希望により各診療科に所属しておりますので、患者さまとふれあう機会があるかもしれません。地方における医師不足が深刻な昨今、南予地域独特の暖かい患者さまに囲まれて、日々研修医は成長しております。今後も温かく見守つていただきますようお願い申し上げます。

市立宇和島病院は平成16年に臨床研修基幹病院の指定を受け、初期研修医が2年間患者さまの診療を通して日々研鑽を積んでおります。臨床研修制度においては、初期研修の2年間で医師として必要最低限の知識と実技を身につけ、後期研修3年間で、各専門領域において更に技術を磨き、医師として成長していきます。

現在当院では、初期研修医が11名在籍しております。一部の疾患のみ診療するのではなく、「ジエネラリスト」と呼ばれる総合的な診察を行う医師に育てるべく、指導医の先生方に日々厳しくご指導いただいております。

市立宇和島病院は平成16年に臨床研修基幹病院の指定を受け、初期研修医が2年間患者さまの診療を通して日々研鑽を積んでおります。臨床研修制度においては、初期研修の2年間で医師として必要最低限の知識と実技を身につけ、後期研修3年間で、各専門領域において更に技術を磨き、医師として成長していきます。

昨年日本では脳死下で47人、心停止下で37人が臓器を提供されています。このような患者さまからの提供は、命の時間的制約がある中での対応となるため、慎重かつ迅速に行わなければなりません。

当院では3月8日土曜日講堂において、院内で2回目となる臓器移植シミュレーションを実施しました。当日は院内外の関係者等41名が参集し、「入院中の患者さまに脳死下臓器提供希望の方が発生」とのシナリオのもと、実働時の役割に従つてロールプレイを行いました。今回は特に「法的脳死判定の手順と注意点など」についても盛り込み、事例発生時ながら白熱した訓練となりました。今回各自の役割を再確認したことにより、院内臓器提供マニュアルの見直しに繋がり、その結果、院内協力体制をより明確に認知することができたと思います。

昨年日本では脳死下で47人、心停止下で37人が臓器を提供されています。このような患者さまからの提供は、命の時間的制約がある中での対応となるため、慎重かつ迅速に行わなければなりません。

院内移植Co 宇都宮 佳代

## 臓器移植シミュレーションを終えて

昨年日本では脳死下で47人、心停止下で37人が臓器を提供されています。このような患者さまからの提供は、命の時間的制約がある中での対応となるため、慎重かつ迅速に行わなければなりません。

昨年日本では脳死下で47人、心停止下で37人が臓器を提供されています。このような患者さまからの提供は、命の時間的制約がある中での対応となるため、慎重かつ迅速に行わなければなりません。



## 体がよろこぶレシピ

### ◎さばの塩焼きみょうが醤油かけ

[材料一人分]

- さば……………60g
- 塩……………小さじ1/10
- aみょうが……………10g
  - 醤油……………小さじ1
  - 酢……………小さじ1/2
  - みりん……………小さじ1/4
- かぼちゃ……………60g
- ピーマン……………20g
- エネルギー……………188kcal
- たんぱく質……………14.1g
- 塩……………1.2g



### 作り方

- ①さばは両面に塩をふり15分ほどおく。
- ②かぼちゃはラップに包んで電子レンジ(600w)で1分加熱し、7~8mm厚さのくし形に切る。ピーマンもくし形に切る。
- ③みょうがは小口切りにしaのその他の材料と混ぜ合わせる。
- ④魚焼きグリルを中火で熱し、さばの汁けを拭いて入れ、あいているところに、かぼちゃピーマンを入れて火が通るまで8分ほど焼く。
- ⑤器にさばを盛り、かぼちゃ、ピーマンを添えて③をかけて出来上がり。



## 【平成26年度7月8月糖尿病教室予定表】

日 程	演 題	担当医師	医療スタッフの講義	担当部署
7月3日	自分の糖尿病を把握しよう	研修医の先生	合併症が出来てしまったときの食事	食養科
7月10日	糖尿病の余病を見落とさないために	内科江口透先生	共に学ぼう、糖尿病	看護部
7月17日	糖尿病と皮膚疾患	皮膚科野澤竜太先生	お散歩から始めましょう	リハビリ
8月7日	糖尿病のことを知ろう	内科江口透先生	見直してみませんか？あなたの検査値	臨床検査科
8月21日	自分の糖尿病を把握しよう	研修医の先生	糖尿病に薬(ヤク)だつ話	薬局
8月28日	最近の話題	内科宮内省藏先生	糖尿病食は健康食	食養科

※全て木曜日に開催されます。

※講義内容は変更になることもあります。

※血糖値測定は毎回行います。

(午後1時30分頃から2時まで)

■時間：午後2時～3時まで

■場所：北棟(1階)多目的栄養相談室

◎26年の日程は以下の予定(すべて木曜日)ですが、内容は未定です。

[9月] 9/4、9/11、9/18

[10月] 10/2、10/9、10/16

[11月] 11/6、11/20、11/27

※随時、広報うわじまやホームページでお知らせいたします。

## 【平成26年度心臓病教室予定表】

日 稲	演 題	担当医師	管理栄養士による栄養食事指導
7月16日	心臓肥大と心血管イベント	松井翔吾先生	体重管理は大丈夫ですか？
8月20日	不整脈の基礎知識	中村真幸先生	食事のバランス考えていますか？
9月17日	狭心症の基礎知識	大島清孝先生	知っていますか？生活習慣病と食生活の関係
10月15日	狭心症の治療1(薬物療法)	清水秀晃先生	コレステロールを上げない食事
11月19日	狭心症の治療2(カテーテル治療)	大島清孝先生	中性脂肪を上げない食事
12月17日	心臓病の薬について(薬局より)	福本駒美薬剤師	年末年始の食事について
1月21日	心不全について	池田俊太郎先生	アルコールと外食について
2月18日	心不全の治療1(薬物療法)	池田俊太郎先生	低エネルギーの料理に挑戦！
3月18日	心不全の治療2(非薬物療法)	池田俊太郎先生	血管を守る食事について

※毎月第3水曜日に開催されます。日程および講師の先生は変更されることがあります。

※入院、外来どなたでも参加できます。ご家族の方も是非ご一緒にご参加下さい。

■講師の先生：当院循環器内科の先生

■時間：午後2時30分～3時30分まで

■場所：北棟(1階)多目的栄養相談室

◎詳しくは、食養科までお尋ね下さい。

**連絡先 0895-25-1111(内線20010)  
市立宇和島病院 食養科**

F	T	住 発
A	E	所 行
X	L	
○	○	宇 和 島 市 御 殿 町
八	九	一 五 一 二 五 一 一 五 三 三 四
九	五	一 五 一 二 五 一 一 五 三 三 四
五	一	一 五 一 一 一 一 一
一	一	一 一 一 一 一 一
一	一	一 一 一 一 一 一
四	一	一 一 一 一 一 一

市立宇和島病院広報委員会

“ジエナリック医薬品”や“後発医薬品”という言葉はご存じでしょうか？  
テレビや新聞などで目や耳にしない日はないと思います。  
では、実際はどのような医薬品なのでしょう？

ジエナリック医薬品とは、新薬の独占的販売期間が終了した後に発売される医薬品のことです。新薬と同じ有効成分で効能・効果、用法・用量が原則同じ医薬品です。  
違いは、有効成分の製造方法や添加物、剤形などです。  
また、ジエナリック医薬品の魅力はなんと言つても、新薬に比べて低価格なところです。  
当院でも約40%はジエナリック医薬品を使用しており、患者さんに安心して服用していただくよう医師、薬剤師が医薬品の信頼性、安定供給体制などを審議した上で採用しております。  
ぜひ安心してご使用下さい。

**薬(やく)立つ話**